

手術室における薬剤管理業務 その3 常駐薬剤師業務の評価

○竹内 萌¹, 松橋 裕子¹, 幕内 麻里¹, 吉崎 さや香¹, 濱野 公俊¹, 横山 美恵子¹, 齋藤 京子², 坂本 三樹³, 館田 武志³, 大坪 毅人⁴, 増原 慶壮¹(¹聖マリアンナ医科大学病院薬剤部, ²聖マリアンナ医科大学病院中央手術部, ³聖マリアンナ医科大学病院麻酔科, ⁴聖マリアンナ医科大学病院消化器一般外科)

【目的】当院では2007年9月よりファーマシューティカルケアの理念に基づく医薬品の適正使用と管理、さらに手術室運営の効率化を目的に、専任の薬剤師が手術室に常勤している。手術室での業務を開始し1年が経過したので薬剤師の業務の評価を目的に、アンケート調査を実施した。また、薬剤部における麻薬業務量の変化を調査したので報告する。【方法】手術室における薬剤師の業務に関するアンケートを作成し、麻酔医、手術室看護師、その他スタッフを対象に調査を実施した。薬剤部の業務量変化は平成19年度と20年度の麻薬業務量を比較した。【結果】麻酔医の94.4%と手術室看護師の75.4%が薬剤師の業務を評価できると回答した。評価された業務として、麻酔医、手術室看護師共に麻薬の管理を上位に挙げた。多数の麻酔医及び手術室看護師が薬品関連業務時間が減少したと回答した一方で、薬剤師不在時の薬品管理が煩雑であり、薬品関連業務時間が増加したという指摘もあった。医薬品情報提供業務について、88.9%の医師と57.9%の手術部看護師が医薬品情報が得やすくなったと回答した。薬剤部の業務は、日中の麻薬注射業務が71.9%減少し、当直滞の麻薬業務が55.8%減少した。【考察】手術室で使用される薬品には、麻薬、毒薬等の特殊な管理を必要とする薬品が多く、薬剤師の介入により、医師・手術室看護師は本来の業務に専念できると考えられる。薬剤部においては手術室関連薬剤を薬剤師が一括して管理することにより業務効率化につながったと考えられる。今後今回の結果を参考にさらなるファーマシューティカルケアの向上を目指したい。